



新校舎への移設に向けて ～ことばの教室の設置を特別支援教育のさらなる充実に結び付ける～

校長 吉川文章

プレオープンはホームページでのご案内になりましたが、待ちに待った新校舎での学校生活が始まります。子供たちがスムーズに登校し余裕をもって朝の生活をスタートできるよう、1週間の期間をめぐりに教員が正門や玄関までの通路などに立ち、誘導を行います。校外委員さんを中心に登校の「定点見守り」をはじめとして各家庭におかれましても安全な登校についてのご配慮感謝申し上げます。コロナ禍の感染防止対策を最優先にしながら、今学期の教育活動へのご理解とご支援どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「ことば教室」が令和4年度から本校に開設（関町小から本校に移転）されることが、「区報、7月21日号」及び「教育だより、7月9日号」に掲載されました。今後も区から詳細についての案内がされる予定ですが、わたくしからは、それに先駆けて本校の保護者の皆様にご説明いたします。

「ことばの教室」と聞くと、「発音が不明瞭や吃音がある児童への専門的な指導」という意味合いと受け取られがちです。もちろん、その視点での指導・支援は行っています。しかしながら、「ことばの教室」で展開されている教育は、もっと「幅の広い」内容を網羅しているのです。

例えば、授業に落ち着いて臨むことが難しいお子さん、文章を読むことや文字を書くことが苦手なお子さん、こういったケースの多くが、勉強が遅れているのではなく、発達特性から起こる「困り感」なのです。加えて言えば、そのケースのほとんどが他の分野で才能を発揮している場合が多いのです。「文字は苦手だが知識理解が高い」「話を聞くのは苦手だが計算力がある」「落ち着きがないが、興味関心のあることには集中力が際立つ」よく聞くことですね。発達に優位性をもつこのような子の多くが、かなりの能力を有しているのに「自分は周りに比べて勉強ができていない」という自己肯定感の低さが見られます。

「ことばの教室」では、そういったお子さんへの「**読み書きの指導**」に特化した専門的な指導も「ターゲット」となります。「一対一」の指導を週に1、2時間繰り返す中で、「語彙を増やす」「書字の苦手を克服する」「言語でのコミュニケーション力をつける」などのプログラムを「意図的・計画的・段階的」に積み上げ、通常の学級においての「困り感」を徐々に軽減、解消していきます。

「ことばの教室」でのゴールは「支援の終了」です。概ね、1年から長くとも3年の内に個々が抱える「困り感」を解消し支援の終了に結び付けることが目標です。こういった教室が本校に設置されることは「この上ないアドバンテージ」です。発達特性に照らし合わせた専門教員が校内にすることで、本校に在籍する全ての児童への支援、加えて全ての教員へのコンサルテーション（専門的な助言）が充実します。特に校内に設置されますので、自校内の通級となり「送り迎え」の必要はありません。

来年度からの設置になります。この巻頭言を読みいただき、相談や問い合わせがありましたら、気兼ねなくご連絡ください。問い合わせ（ 関町北小学校副校長：3920-1027 関町小ことばの教室：3929-1200 練馬区教育委員会学務課就学相談係：5984-5664）

ことばの教室の設置を本校の特別支援教育のさらなる充実に結び付けてまいります。このことにつきましても随時発信をしてまいります。